

## 令和7年度

## 「日本語ボランティア入門講座」

開催日時：全5回講座

(令和7年8月23日・30日、9月6日、10月4日、令和8年3月7日(各日 土曜日))

会場：あいち国際プラザ アイリスルーム

講師：米勢治子氏(愛知県立大学多文化共生研究所客員研究員)

依山雄司氏(名古屋大学 准教授)

松本一子氏(東海日本語ネットワーク)

酒井美賀氏(東海日本語ネットワーク代表)

鈴木勝代氏(ことばの会 代表)

参加者：県内日本語教室ボランティア 参加者25名(延べ120名)

主催：(公財)愛知県国際交流協会 交流共生課 交流共生担当

令和7年度「日本語ボランティア入門講座」を開催しました。

地域の日本語教室で日本語ボランティアとして活動する方を新たに増やす取り組みとして、日本語ボランティア初心者及び未経験者を対象として、心構えなどを学ぶ講座となっております。

【1日目】テーマ：日本語ボランティアの役割

講師：米勢治子氏



まずは自分がどのように「日本語ボランティア」について考えているのかを理解した上で、その後国や県がどのようなことを日本語ボランティアに求めているのか、その位置付けについても学びました。

地域の教室で活動するのに、「日本語教師資格がなくても良い」、「完璧を求めず、学習者がある程度理解できれば良い」、「やさしい日本語を学んでみる」等、講師から活動を始める上での基礎的なことをお話いただき、「教えてあげる」のではなく、「互いに学ぶ」、という姿勢の大切さについても触れていただきました。

【2日目】テーマ：日本語学習支援の内容・方法

講師：依山雄司氏

文型中心のメリット・デメリット、対話型、行動体験型の特徴など、様々な教え方、教材についてご紹介いただきました。

特に、行動体験型の教室活動について、グループごとに考えデザインし、発表を行うことで、実際の教室活動において、どのように授業を組み立てていくかを体験することができました。行動体験型を行う上でのアドバイスとしては、「学びがある活動にする」ということ、「参加者ができるようになったと思える活動にする」というものでした。



【3日目】テーマ：学習者とその子どもたち

講師：松本一子氏



「外国にルーツを持つ子どもたち」は多様な背景を持ち、こういった経緯で増加し、こういった状況に置かれているかという基礎的なことから丁寧にお話いただきました。

「日本語指導が必要な児童生徒」の数が、愛知県が日本一であることを踏まえ、現在の公的な対応状況や地域の日本語教室ができることまでアドバイスいただきました。

大人への日本語指導と子どもへの指導は違っているため、子どもへの指導方が必要なこと、母語の重要性や保護者にもいろいろなことを伝えていくことで、子どもたちにできることが増えるといったことまで、大人向けだけでは見えない観点まで幅広く触れていただきました。

【3日目】テーマ:県内日本語教室紹介  
講 師:鈴木勝代氏、酒井美賀氏

地域の日本語教室活動の様子を知っていたため、3日目と4日目の間には一カ月の教室見学期間を設けています。参加者の皆さんを送り出す前に、色々な教室のやり方、様子を感じていただくため、地域の日本語教室の方に来ていただき、お話を聞く時間を作りました。

- ▼今年度の紹介団体は下記のとおり
- ・新城市国際交流協会…対話型メイン
  - ・江南市国際交流協会…居場所の提供
  - ・あいち日本語の会…テキストメイン



【4日目】テーマ:教室見学まとめ～今後の活動に向けて～  
講 師:鈴木勝代氏、酒井美賀氏



設けられた1ヶ月の間に、地域の日本語教室に最低2つは訪れていただき、それぞれに発表いただきました。参加者は、自分の自宅・職場の近くなど、どこで教室が開催されているのか、地域を知ることにも繋がり、さらに、こういった活動であれば自分に適している、無理なく活動できるかなどを知ることができました。講座同期の仲間同士つながることもでき、今後につながる良い機会となりました。

【5日目】テーマ:フォローアップ  
講 師:鈴木勝代氏、酒井美賀氏  
アドバイザー:米勢治子氏、依山雄司氏、松本一子氏

約5ヶ月ぶりに再び顔を合わせ、互いに近況について伝えあったのち、各グループに講師・アドバイザーが入り、活動している・いないに関わらず感じていることや不安なことについて出しました。最後は各グループで出た話を全体に向けて発表し、学習者のニーズに合わせる工夫、活動者同士のコミュニケーションの取り方、参加者自身の不安との向き合い方など、多様な気づきがありました。その後、講師からの総括コメントがあり、「完璧を目指さず、できることから少しずつ」など、活動を続ける勇気を与える温かいメッセージをいただきました。



【参加者の感想】

「教えるものだと思っていましたが、対等な立場で学びあう、と言うのは良い気付きでした」  
「色々な教室の特色を知ることができ大変ためになり、自分がやりたいこと、向いていることも明確になりました」  
…等といった感想が寄せられました。  
「日本語ボランティアをしてみたい」という思いのもと集まった仲間ができ、意識が高まった」という方もいらっしゃり、この講座を通して、地域日本語教室や日本語ボランティアへの理解を深めるとともに、次の一步を踏み出す機会となりましたら嬉しく思います。